31

読プロ風「読書会」の作り方

〈材料〉

- 課題本
- コメントカード　} 各自あらかじめ用意
- 発言を記録できるもの（ホワイトボード、模造紙等）
- 熱意

＊お好みで＊
お菓子、課題本の関連書籍や映像

〈作り方〉

①各自課題本を読み、コメントカードを記入。
②コメントカードを集め、★が多い順に並べて人数分印刷。全員に配り、現本のカードは書いた人に返却する。
③読書会開始。★の多い人、少ない人が交互に発言する。この際、発言はカードに書いたことだけでなくても可。（熱意をもって臨むほど、白熱した読書会に！！）
④発言はホワイトボード等に記録を取っておく。（後に議事録へ反映）
⑤まとめとして、個々で読書会をした感想などを言い合い、読書会終了！

課題本は基本的に候補を出したうえで話し合いにより決まります。
例外として、読プロ内で行うビブリオバトルで優勝すると課題本の絶対的決定権をもらえるという場合もあります。

マンボウ読書会　★★★★★

『マンボウのひみつ』　著：澤井 悦郎　岩波ジュニア新書

参加：6名

あらすじ：人気者なのに謎すぎる魚・マンボウ。なんであんな形なの？ 夜光る、すく死ぬ、おぼれる人を助けた、3億個産卵して生き残るのは2匹……伝説の真相は？ 古い文献探しから先端技術での生態調査、料理やサブカルまで、マンボウのひみつを解き明かそうと挑んだ若き研究者が、恋喜こもごもの研究ワールドへご招待！（書籍裏表紙より）

選行：一人につき一枚白紙を配り、課題本に対する感想や絵を書きこみながら議論を交わした。議論後は著者澤井悦郎氏が登場したタモリ倶楽部というテレビ番組（2017年2月10日放送）を動画で視聴し、全体のまとめに入った。

参加者の感想・意見・批評など

R.S：マンボウは直ぐに死ぬというイメージだったが、そうでは無いと聞き本に興味を持った。生物学的な内容は難しく、読むのが大変だった。各章最後にあるマンボウ俳句が分かりやすかった。マンボウの表皮は強いと知り、逆に何をすればマンボウは死ぬのかという疑問がわいた。
　マンボウ料理の写真があったが、泳いでいるマンボウを水族館で見ても興味しそうには感じない。青森県で切り身のマンボウは見た事がある。

　タモリ倶楽部の映像を見て、改めてマンボウは面白いと思った。マンボウの干物って……。

Y.S：写真やイラストが豊富で分かりやすかったが、解剖写真などは不気味だった。R.S 君と同じく理系の話は苦手なので、生物学的な内容の箇所は難しく感じた。カービィやアプリゲームの話が登場するので大変興味深く読むことができた。（アニメカービィに登場するマンボウキャラは嫌いだ）マンボウ俳句で章の内容を理解できた。
　イルカがマンボウに体当たりをして遊ぶと知って不慎に思った。マンボウは反撃しないと知り、穏やかな生物なんだなと思った。写真にあるマンボウアイスキャンディを食べてみたい。
　マンボウの映像をタモリ倶楽部で見ることができて、本を読むだけでは分からないマンボウの動きを知れてよかった。楽しかった。

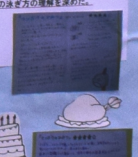
Y.U：マンボウという生物にはまだまだ謎が多いことに驚いた。マンボウに関する都市伝説が流行った時代があるとは知らなかった。課題本が発行されたのもごく最近で、内容も 2000 年代についてのことが多かったので、マンボウを身近なテーマとしてとらえることができた。
　体の仕組みや他の魚との違いをよく理解できた。見た目では雌雄は分からないんだ。研究者としての苦労も知ることができた。学者って大変。

N.S：マンボウはマスコットのような可愛さがある。しかし生物として実験することはやまずに難かった。写真も多く図鑑としても楽しめる本で、著者のマンボウ愛を感じた。マンボウ俳句に期待しすぎたせいか、あまり面白いとは思わなかった。水族館や歴史の話など、話題が広い分野に渡っていた。これを読めばマンボウが分かる！という本だ。マンボウが星座すること、泳ぐスピードが速いことは衝撃だった。
　タモリ倶楽部で著者である澤井さんがマンボウについて説明していて、研究の映像もおもしろくとても楽しく視聴できた。マンボウかわいい。

K.S：マンボウは繁殖力がある。しかし生物としては強くないので、バランスのとれた生物だと思った。体の表面は寄生虫に覆われている。生存戦略がすごい。マンボウについての理解が深まった。映像資料も大変楽しく視聴できた。

フリートーク

・魚の模様って縦縞と横縞が分かりにくい。
・マンボウは危急種。減少中らしい。人間の責任か。
・イルカに襲われるマンボウは温厚な性格なんだ。
・何を食べるのか？→水族館では海老や甲殻類を、海では複魚を食べてしまうこともある……。
・地方によってマンボウの呼び方は違う。みんなはどんな呼び方が好き？→キナッポー、ユキイカダ、ニナポウ、カマブタ、マンボ、シチャーなどなど。読プロメンバーはパン・パンパラパンという愛媛県での呼ばれ方が好き。
・マンボウはペンギンと同じ泳ぎ方をするそうだ。→メンバーで身体を使って（上半身をかたむけ腕をばたつかせるなどして）実演し、楽しみながらマンボウの泳ぎ方の理解を深めた。



今回のまとめ

今回の読書会は一人一枚画用紙を使用し、自分の意見や絵をかいて課題本への理解を深めた。
　生物がテーマの本で読書会をするのは初めてだったが、想像以上に盛り上がった。
　マンボウについて知ることができて、水族館へ行きたくなったというメンバーもいた。映像資料は楽しみながら本への理解を深める道具になった。

桜美林大学